

© 新潟エーランジャー・サンライズ



M&M-0 WATCH JUN PRINCIPALITY OF ZEON MASS-PRO^U

BANDAI 2005 MADE IN JAPAN

パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。

CG WORKS by Tenjin Hidetaka

BANDAI



MOBILE SUIT
MSM-04

ACGUY

PRINCIPALITY OF ZEON
MASS-PRODUCTIVE
AMPHIBIOUS MOBILE SUIT



BANDAI 2005 MADE IN JAPAN

ジオン公国軍
量産型水陸両用モビルスーツ
MSM-04「アッガイ」
1/100スケール
マスターグレードモデル

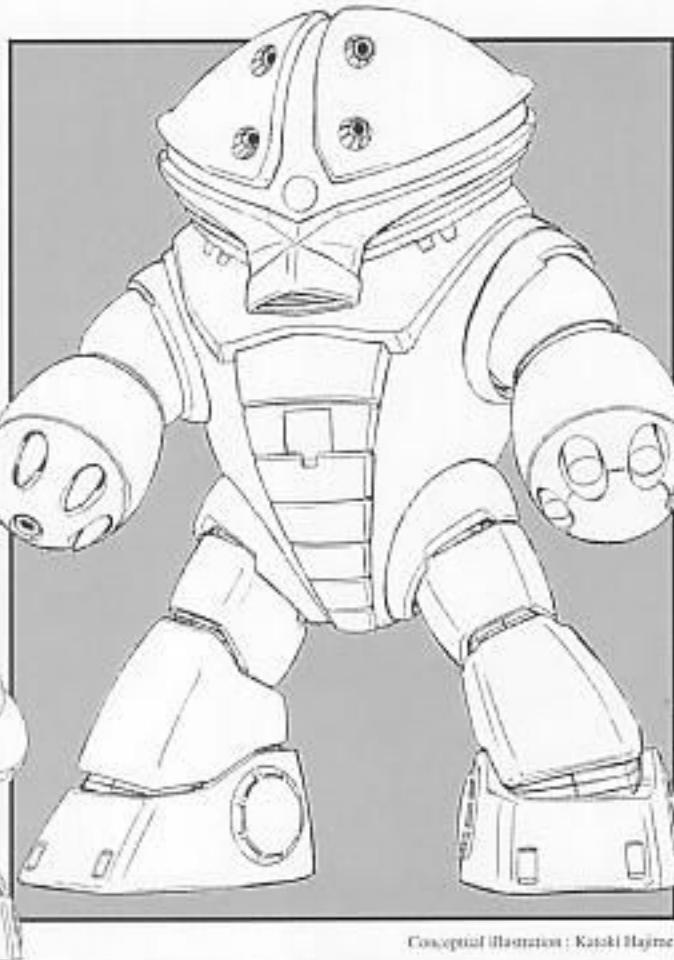
Scanned by DaLong.net

0134108



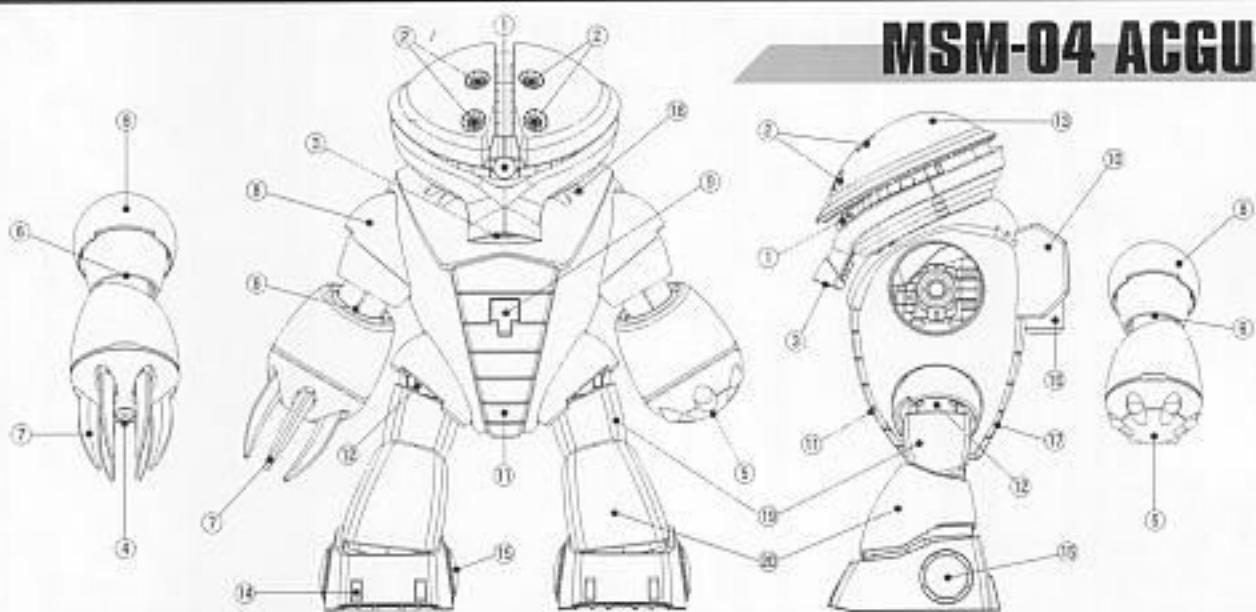
MSM-04 ACGUY

MSM-03 ゴッグの量産化に成功した公国軍は、更なる高性能水陸両用機、後のMSM-07 ズゴックの開発に着手する。続いて、ゴッグよりも小型軽量で調達が容易な機体として、MSM-04 アッガイの開発がスタートした。この機体は、多くの部品をMS-06J ザクIIから流用しているため開発も順調に進んだ。また、複数式のコクピットが採用されているのが特徴で、水陸両用MSの訓練員として使われる事も多かったと言われている。ジェネレーターは、開発、生産、運用等の各種コストを削減する為、06Jのものをそのまま転用する予定であったが、その想開発時は、水陸両用MSが基本的に持つ矛盾に直面する。まず、水面に耐えるために強固な機体構造と強靭な装甲が必要だが、白重の増加は陸上での運動能力の低下を招く。陸上で機体の機動性を向上させる為には高いジェネレーター出力が必要となる。しかしアッガイのコンセプトは「ゴッグよりも調達容易な水陸両用MS」の開発で、大出力ジェネレーターの新規開発などは想定外であった。そこで、ザクのジェネレーターを2基搭載する事とした。それでは栖息スペース確保のため規模を縮小、トータルでゴッグにやや勝る程(ザクの2倍程度)のジェネレーター出力を確保したのである。機体サイズこそゴッグとほぼ同じであったが、生産性や運用コストはゴッグと比較にならないほど低く抑えることが可能となった。さらに、大出力が必要なのはあくまで陸上活動時であるため、水中航行時には稼働するジェネレーターを1基として、いわゆる「片側航行」が可能となった。その際、機体から発生する高熱源は水陸両用MSとしては考えられないほど低くなり、熱センサーに感知されにくいというメリットが確認された。そこで、機体全体の装甲に電波吸収材などによる加工が施され、機体色も湿地などにておける視認性が低いダークブラウン系のステルス性の高いものがデフォルトとなっている。機体形状も同様に配慮されており、航行時にソナーなどのセンサーに表示されるシルエットは、一見、蛇などの消費生物と見分けがつかなかったとさえ言われている。かくしてアッガイは水際の偵察任務などの、確実性が必要とされる局所で頻繁に使用される事となった。



Conceptual illustration: Kazuki Hajime

MSM-04 ACGUY



①メインカメラ

②105mm/バルカン砲

③インターク/エキストラクター

④機関砲

⑤6連ミサイルランチャー

⑥フレキシブル・ペロウズ・リム

⑦アイアンネイル/クロー

⑧ショルダーユニット

⑨コクピットハッチ

⑩バックパック

⑪オーバーホールハッチ

⑫レッグスライドユニット

⑬センサーリード

⑭メンテナンスハッチ/ベイロードスペース

⑮アンクルフリュイドセンサー

⑯バーニアスラスター

⑰メンテナンスハッチ

⑱ネックフリュイドセンサー

⑲トップ・レッグ・アーマー

⑳ボトム・レッグ・アーマー

(※フリュイド=流体)

注) この機体は、キャリフォルニア・ベースのZEONIC工廠(こうしおう)において生産された、いわゆる“中期量産型”と呼ばれる仕様の機体である。南米大陸周辺から東南アジア沿岸部を中心とするほとんどの海域において、偵察、作戦拠点の確保など、公国軍の水際作戦展開などに貢献した。公国軍の水陸両用MSのなかでも、この機体の運用局面は多岐にわたっていた。

△ 注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。(強い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーを使いますので別にご用意ください。

〔組み立てる時の注意〕

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号表記かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のケズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおおすすめします。



・部品を下書きすること



・シールの番号



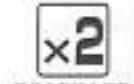
・シールマーク表示

・反対側に貼り付ける
シール・面倒に剥離シールで貼
り付けます・肉厚に注意して
貼り付ける

・ビスの締めすぎに注意



・初回取るとこ

・部品を複数個の個数
作ります

・先に組み立てます

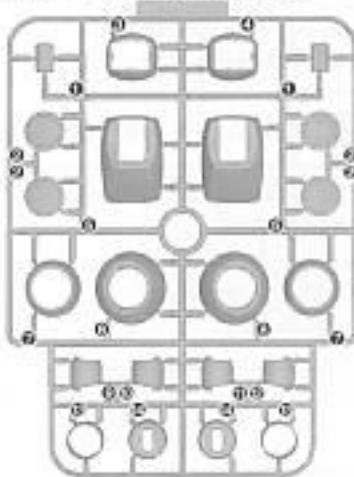


・後に組み立てます

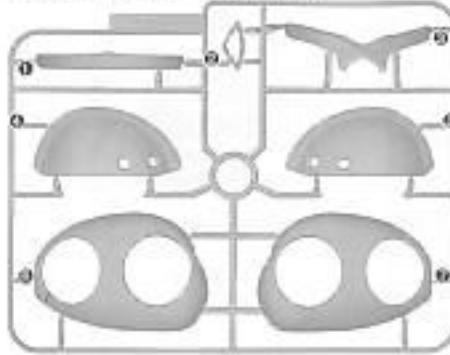
・面倒に剥離シールで貼
り付けます・どちらかを選んで
貼り付ける・反対側も同じように
貼り付ける

パーツリスト

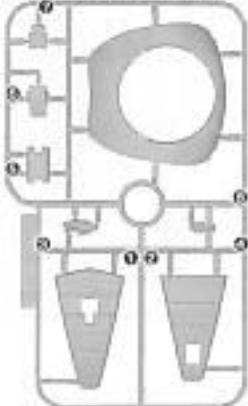
A/パーツ (スチロール樹脂: PS)



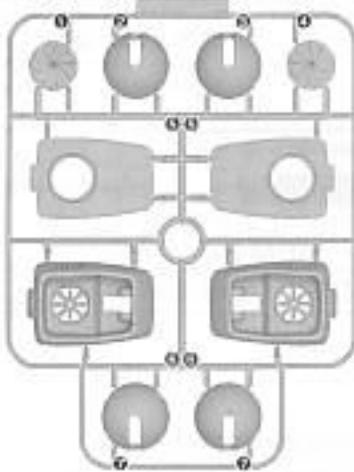
B/パーツ (スチロール樹脂: PS)



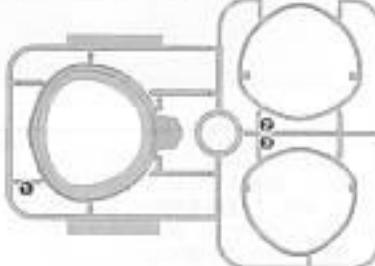
C/パーツ (スチロール樹脂: PS)



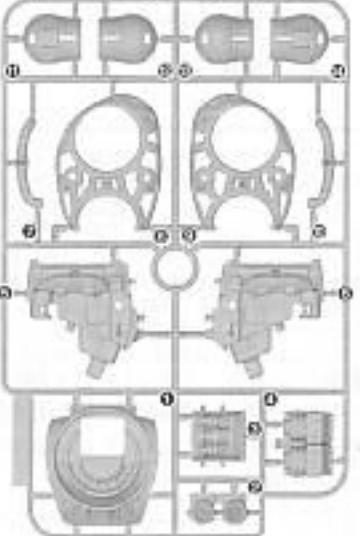
D/パーツ (スチロール樹脂: PS)



E/パーツ (スチロール樹脂: PS)



F/パーツ (スチロール樹脂: PS)



[部品表]
PARTS LIST

[基本説明]
HOW TO

[胸 部] 1
BODY UNIT

[頭 部] 2
HEAD UNIT

[腕 部] 3 4 5
ARM UNIT

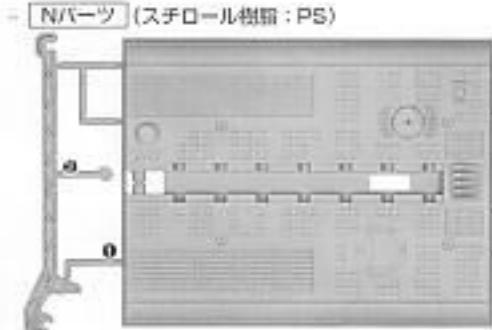
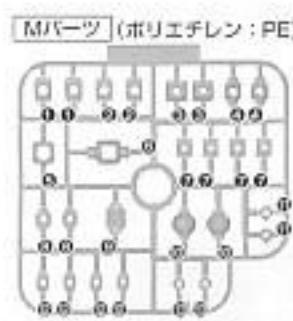
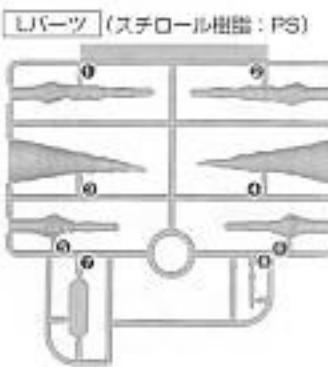
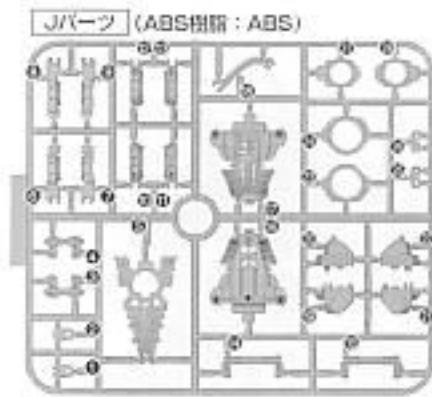
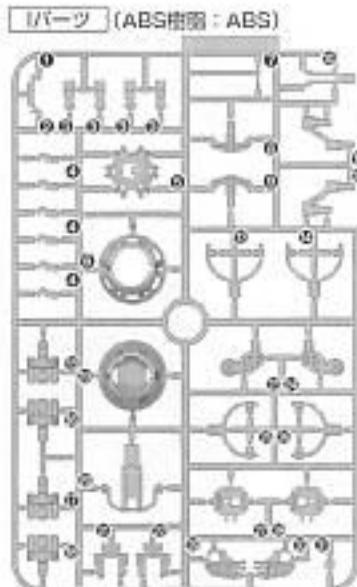
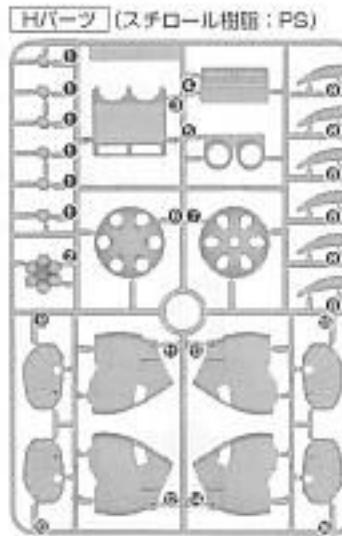
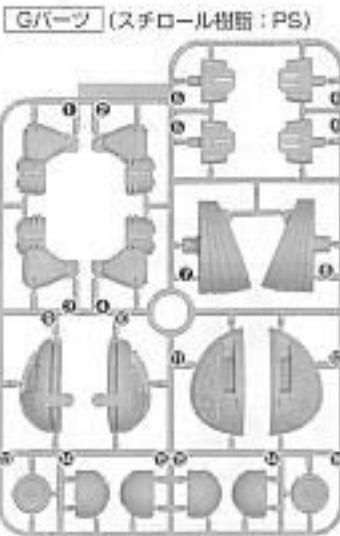
[脚 部] 6 7
LEG UNIT

[完 成] B
FINAL ASSEMBLE

[ディスプレイスタンド] 9
DISPLAY STAND

[オプション] 10
OPTION

[シール] (オプション)
SEAL



マーキングシール……1枚
ガンダムテカール……1枚
ビス……4本
スプリング……1個

(お貴い上げのお客様へ) 部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号/番号/数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書(裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。)にて下記までお申し込みください。代金は、料金表通りです。為替証書は無記入(白紙)で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超過する時は不足分を請求、表記額以下の時には強制をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂いた個人情報は、商品・部品の発送業務以外には使用いたしません。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター

〒424-8735 静岡県静岡市清水区西久保305 TEL0543-65-5315

(料金表) ■部品代は切り取った1個の料金です。

部品番号	取扱説明書	テカール類	K●	N●	その他の部品
部品代	150円	各40円	40円	100円	各40円
郵送料	200円	80円	140円	240円	120円

For Japanese use only.

部品注文カード 0134108-4000
1/100SCALE MGシリーズ
MSM-04 アッガイ

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む)(こわしたなくした)

・日中ご連絡可能な電話番号 年齢

（ ）（才）

05.07

*コピー使用可

組み立て前の基本説明

必要な道具

〈ニッパー(プラスチック用)〉
・パーツをランナーから切りはなしてゲートを取り扱うのに使います。



〈ピンセット〉
・小さい部品を取り付けたりシールを貼るのに便利。

〈はさみ〉
・ガンダムデカールを切りはなす際に使用します。



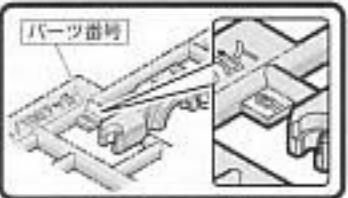
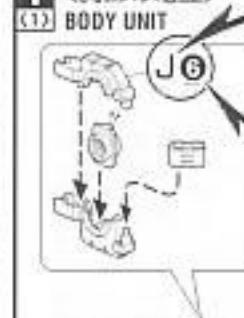
〈+(プラス)ドライバー〉
・ビスを締める際に使用します。

※この商品に道具類は入っていませんので、別にて用意ください。

説明書の見かた。

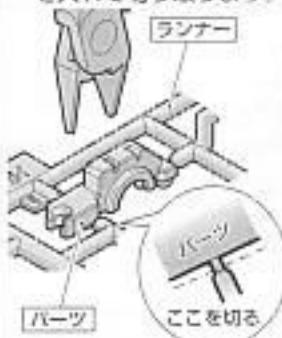
説明書のパーツに書いてある番号と同じものをランナーから探しましょう。(パーツリスト表と合わせて見ると、探しやすくなります。)

1 [胸部の組立] (1) BODY UNIT

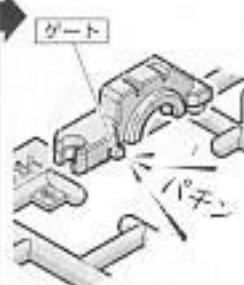


パーツの切り取りかた。

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



②パーツを切り落として持ちやすくなったらところでゲート跡の処理に入ります。

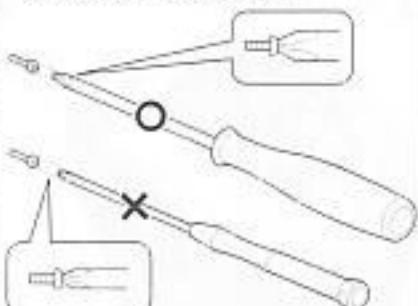


③ニッパーの刃をパートに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



ドライバーの選び方

※ビスに合ったドライバーをご使用ください。サイズの合わないドライバーを使用するとビスを破損してしまう場合があります。



ガンダムデカールの貼りかた。

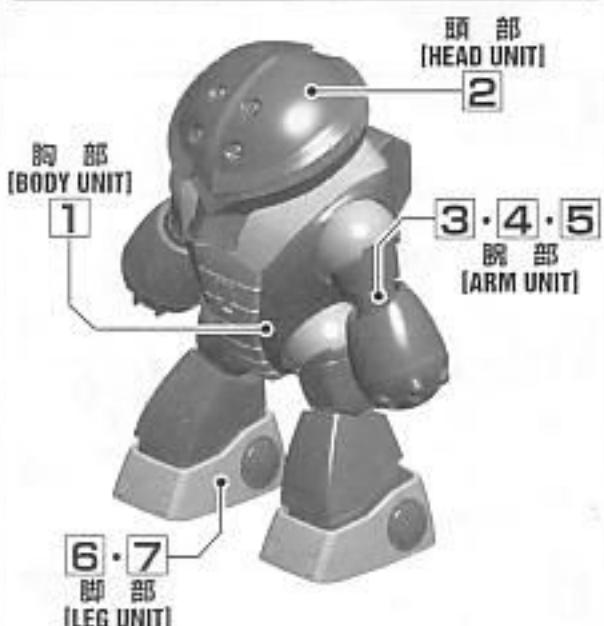
①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。



②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。



説明書をよく読んで完成させましょう。

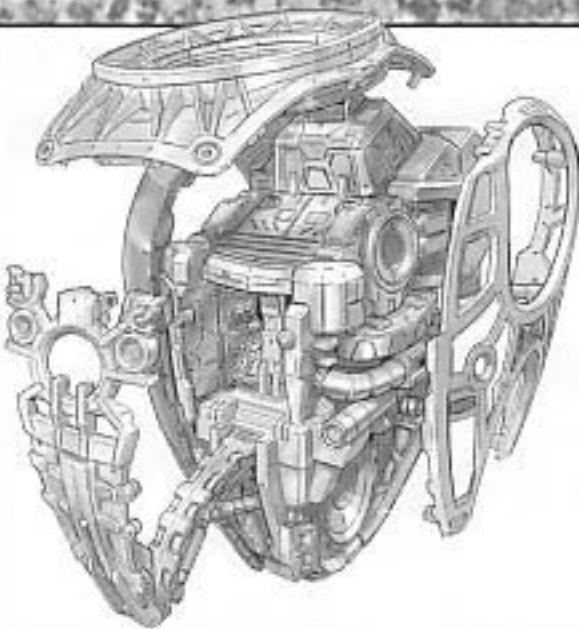


BODY UNIT

[胸部]

アッガイのボディユニットは、水陸両用MSとして開発されたわけではなく、基本的にMS-06Jの部材を水中でも使えるようにしたものだと言うことができる。その基本フレームはザクのものがそのまま流用されている場合も多く、特にコクピット周りなどは、シートスライド機構を廃止し、ほぼそのままで複屈式とされている。

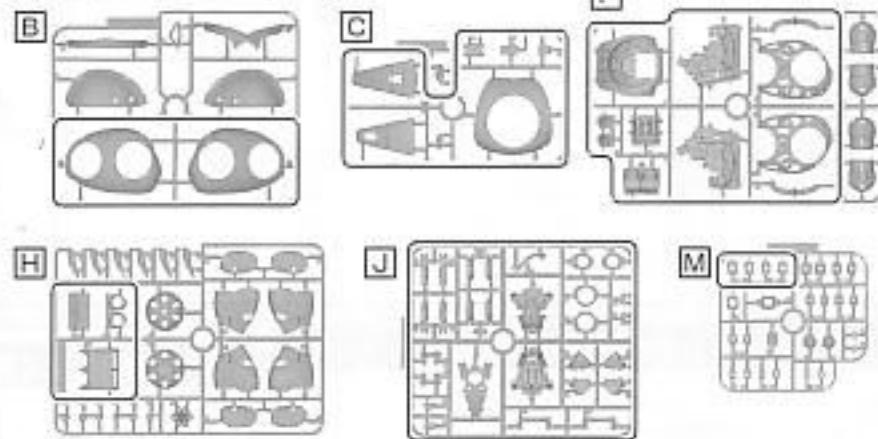
アッガイは水陸両用MSとはいっても、ゴッグやズゴックなどのように複数のビーム兵器のドライブは想定されていなかった。その反面、ゴッグに匹敵するほど開き直った設計思想に基づいていたということができる。つまり、駆動用の部材などにはザクのものを流用し、前行用に必要なものは、並行して開発されていた機体の物を流用、あるいはノックダウン生産してでも調達し、どうしても間に合わないものは、緊急時に使用する熱核ロケットストラスターなどの民製品をそのまま流用するのである。頭部のペロウズリムは、ZIMMADやMIPなどとの共同開発に近かったため技術は公開されていたし、歩行脚にしても、機構のほとんどはザクの流用で事足りていた。むしろ、2基搭載したジェネレーターのコンダクタデバイスや、余圧殻の設計の方がよほど困難だったと言われている。さらにZEONICは、胴体すべてを水密構造とするのではなく、およそ三段階の基準で隔壁を設け、それぞれのバルクヘッド(一定間隔で機体を区切り防水壁とする)に優先順位を割り振ったのである。つまり、一滴の水の侵入も許さない部位がある一方で、頻繁に海水などが出入りする区画もあるのである。これは、ゴッグの設計思想とは正反対だということもできるだろう。実際、アッガイの“探知されにくさ”は、こういった構造に由来するとまでいわれている。



1 BODY UNIT

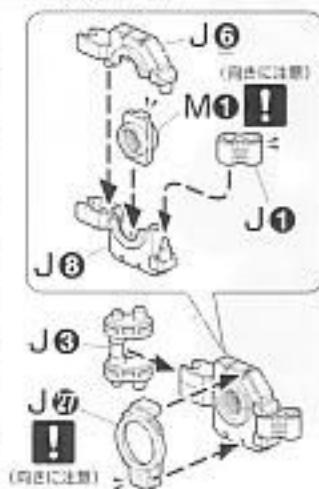


・組立 1で使用するパーツ

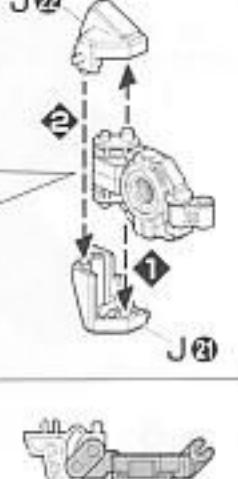


1 [胸部の組立]

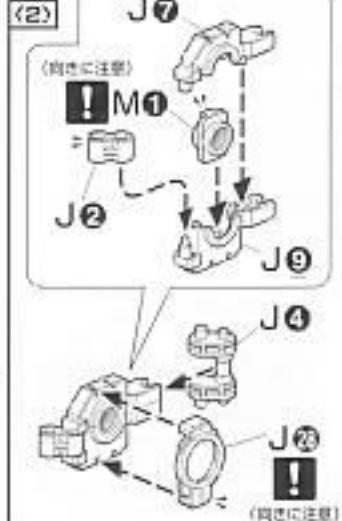
(1) BODY UNIT



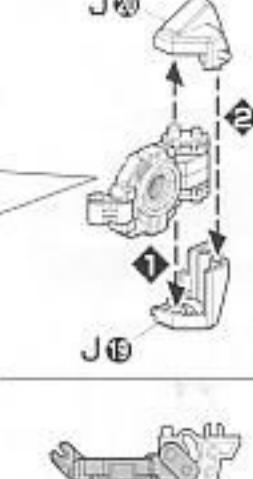
1 (2)

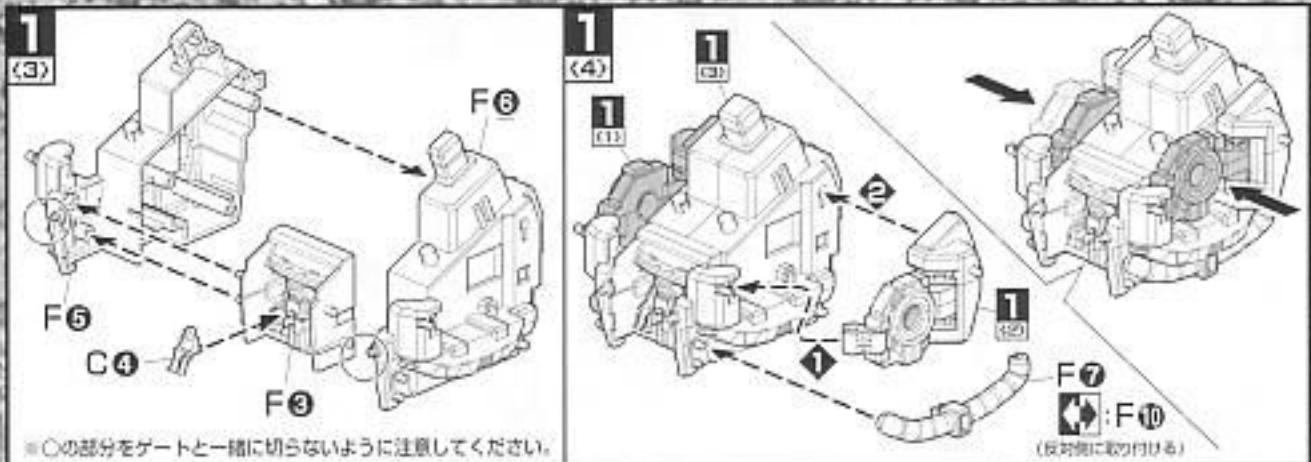


1 (2)

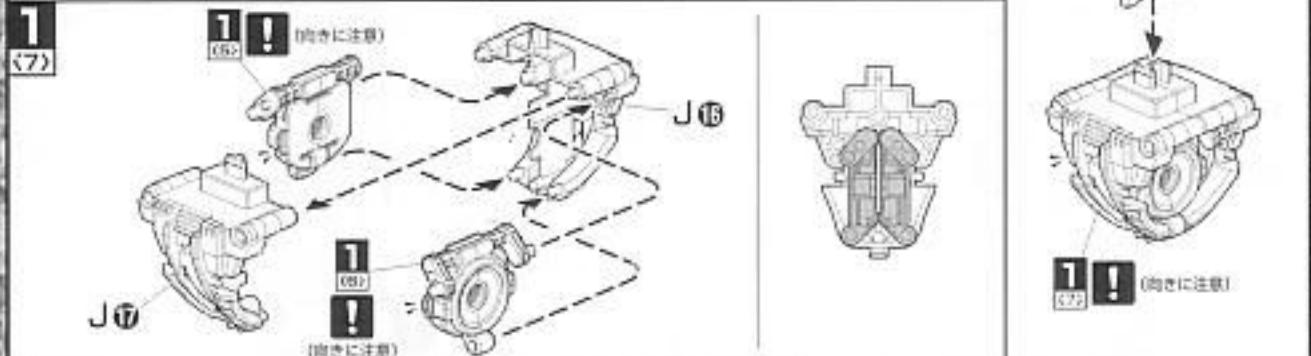
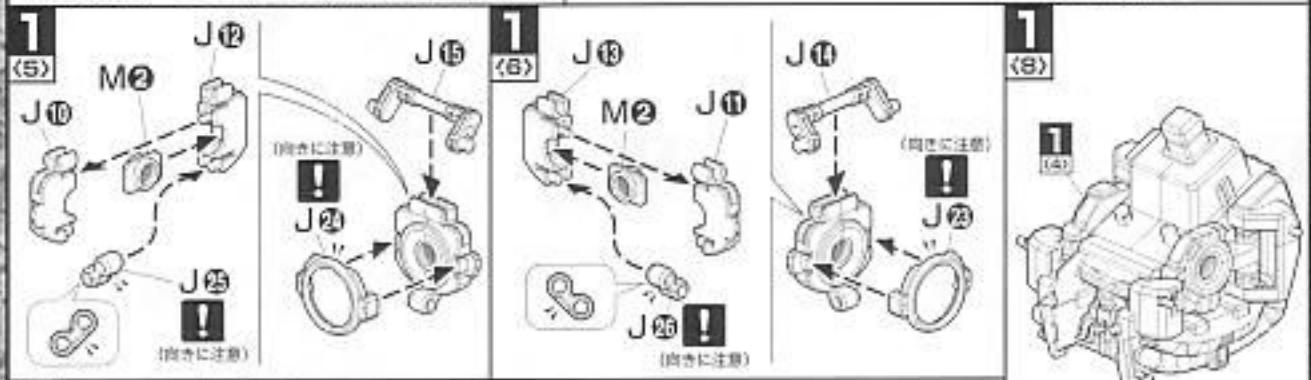


1 (3)

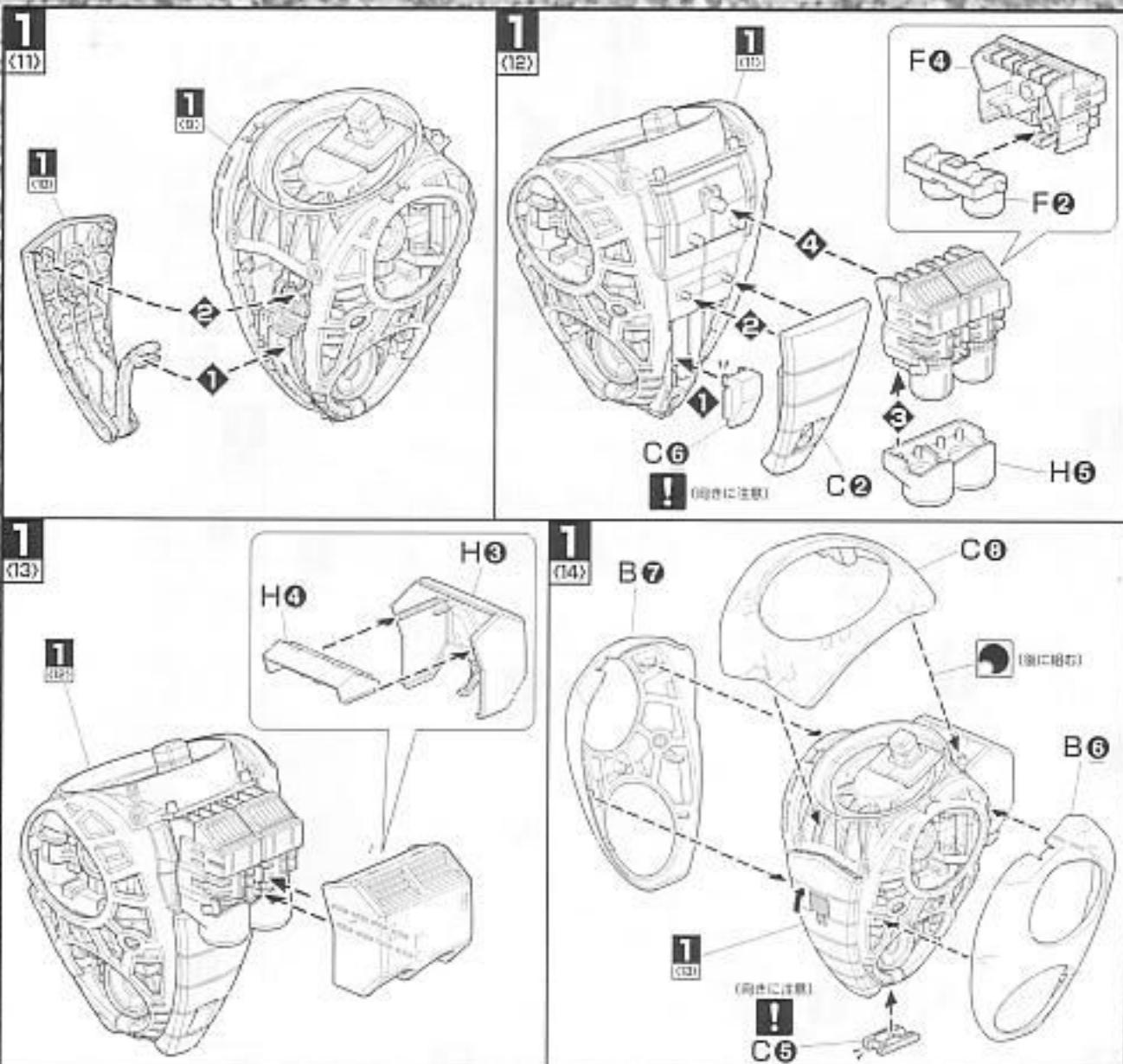




※○の部分をゲートと一緒に切らないように注意してください。



[シールド] SEAL	[オプション] OPTION	[ディスプレイ] DISPLAY STAND	[完成品] FINAL ASSEMBLE	[腕部] ARM UNIT	[頭部] HEAD UNIT	[胸部] BODY UNIT	[部品表] PARTS LIST
-------------	----------------	------------------------	----------------------	---------------	----------------	----------------	------------------

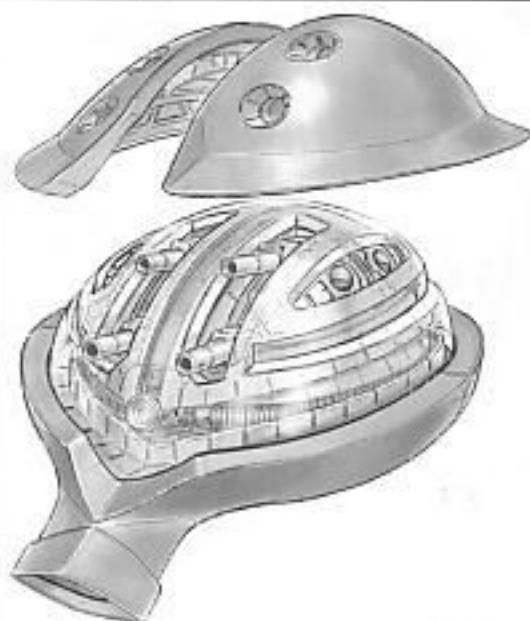


HEAD UNIT

(頭部)

アッガイのヘッドユニットは、推進や駆動以外のほとんどの機能が盛り込まれている。4門の105mmパルカンを取り囲むようにドーム状のセンサー・アレイとモノアイ軌道が配置された構造となっており、さらに、航行時と陸戦時の双方に対応した水冷/空冷のラジエーターシステムを持っている。

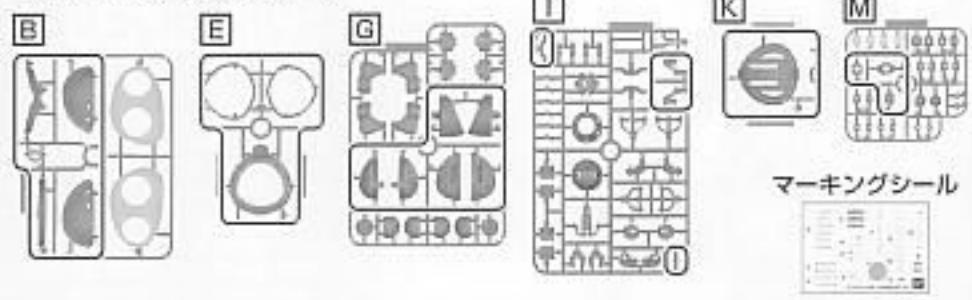
アッガイのヘッドユニットは、本体内に水陸両用機に必要な機能をまったくといっていいほど盛り込めなかつたため、センサー類などをはじめとして水中の行動に必要な装置のほとんどが集中している。そのため、他の機体と比較して非常に巨大なユニットとなってしまった。ただし、そのように機能分化を徹底したため、逆に建造、運用におけるコストなどの面で非常に優秀な機体となつたのである。流速計や深度計など「航行」に必要なセンサー類にこれといった特徴はないが、レーダーやソナーなど、駆逐に必要なセンサー類は、いわゆるEWAC機に匹敵するスペックを達成している。これは、専用機のように高精度な部材を採用するのではなく、標準的なスペックのものを円筒状に配列することで、その組み合わせによって精度やレンジを向上させるという手法を探っている。その中央部にパルカン砲としては口径が大きい105mm機関砲を据えつけ、それらをブロックごとに水密処理したうえで、モノアイの軌道で取り囲む。この構造は乍ら段階から始めており、バリエーション化の際には、頭部ブロックごと換装することで、特性の異なる機体とすることが可能となるのである。



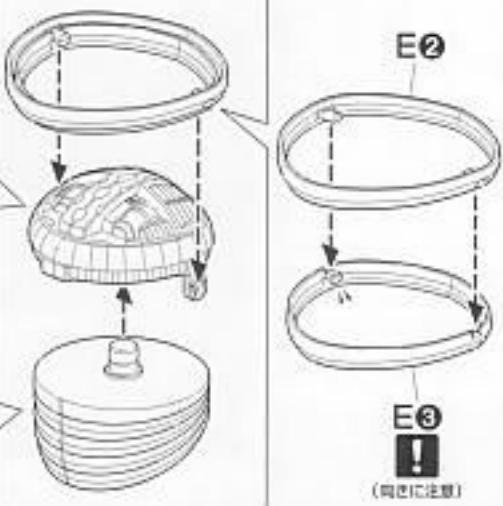
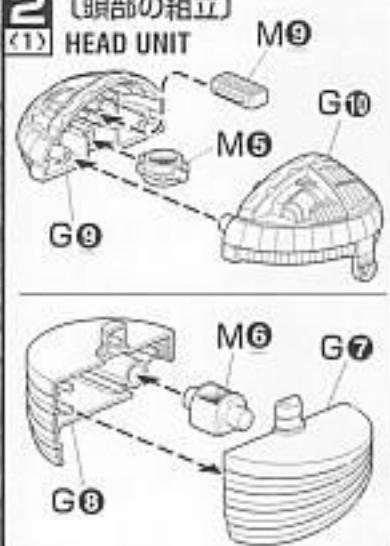
2 HEAD UNIT



・組立2で使用するパーツ



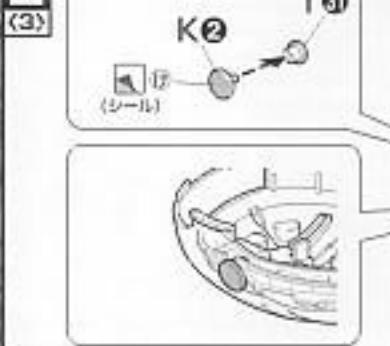
2 (頭部の組立) HEAD UNIT



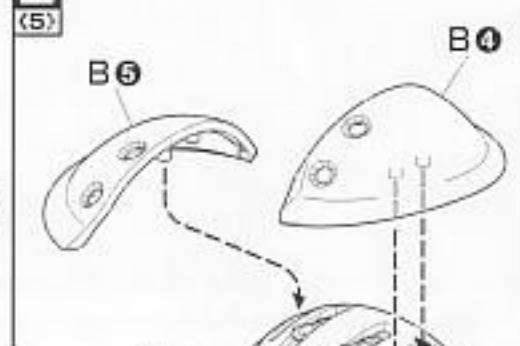
2



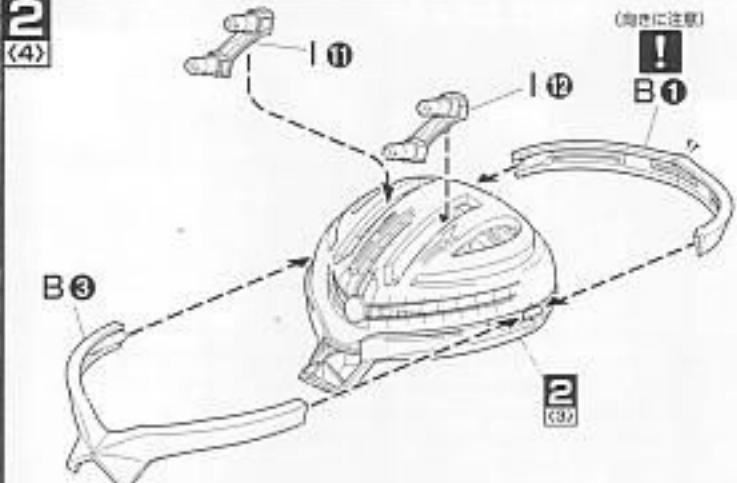
2



2



2





DESTROY TOCHKA

「ポイントB3、今までのところまったく異常なし。ジオンの定期爆撃、例のごとし」「了解」アマゾン川のいくつもの支流のある合流点に建てられたトーチカで、いつものように報告を終えた兵士は同僚に手をこねていた。「こんな辺境(へんぜい)で定期報告もくそむかわるって」「ほやくなほやくな。あちらさんだって絶対にただく前にひたすらやってんじゃな、……ああっ!」「どうした? うっ!」同僚の視線を盗った兵士の視線の先でモノアイが鋭く光る。定期爆撃の音と雷鳴に始めてか、いつのまにかトーチカのすぐ外まで走っていたアッガイは、兵士たちが気付くが早いか、その前を振り下ろしていた。トーチカを破壊したアッガイが合図を送ると、彼方の森の裏から真紅のズボックとさらに数機のアッガイが出現した。シャア軍いるこの特殊部隊は、河口から上陸した地点で上陸し、ジャブローへと抜く潜入ポイントまで隠遁に沿っていた。

SUBMERGE DEEPLY AND QUIETLY

U.C.0079年11月30日。連邦軍の本拠地であるジャブローへの公認軍による一大攻勢は、いつもと同じような定期爆撃から始まった。しばらく前から頻繁に行われていた激戦な対地攻撃は、依然として公認軍が、ジャブロー基地の全容を測りきねているかのようであった。そのせいだろうか、ジャブロー基地の警戒システムの、特に片側で監視任務に就いている兵士たちは、この振舞をいつものこととして放置していた。まるで公認軍による基地内への侵入など無かったかのように。シャアを指揮官として新たに編成されたMS部隊は、まるでその隙を見透かしたかのように上陸地点を狙う。シャアの赤いズゴックと黙黙のアッガイは、空爆を開始してジャブロー基地に潜入し、基地内で破壊工作を実行しようとしていたのである。ジャブローの管式水域に沿ったアッガイは、熱核水素ジェット推進からステルス推進にモードを変更し、あたかも毒液唾乳腺が活動しているかのように腕をくねらせながらジャングルの脇に近づいた。もしもこの状態でソナーに捕らえられたとしても、大きな魚群か、あるいはクジラでも迷い込んだのかと思われるだろう。まさしくアッガイはそのような運用を目的として開拓されていたのである。



NOTE TO SLIPPING

ジャブローの地道に潜入したMS部隊のパイロットたちは、開けた場所に立着するとMSを降り、ジャブロー基地内部で破壊工作を実行すべく、アッガイのつま先の足元ペイロードベースから取り出した迷彩スクリーンに着替え、身支度を整える。「シャア大佐、準備できました!」「アカハナ」のコードネームで呼ばれる大柄な兵士が中告する。「よし、行くぞ」特務部隊は、アカハナの隣に連邦軍のMS工場を、シャアの隣は自衛隊ペースとドックをそれぞれ確保するため二手に分かれた。さらに内部へと続く坑道を進むアッガイと、人の声が聞こえた。「ん?誰が来る?」「ラムジ」が注意を促す。「待て、子供のようだ」イワノフは、この面影をやり過ごすべく者と者の間にアッガイの姿を認めさせる。「さ、キッカ」「あれ…」「カツ、するぞ、気をつけて」。三人の子供がアッガイの頭部を通り過ぎるのを待つて、イワノフはアッガイのモノアイを一瞬だけ見開かせる。ビゴンッ、「ーん?」眞記を探したのか、半ズボンの男の子が振り向く。と、赤いオーバーオールの男の子に促され、その場を離れていった。「…ヒヤヒヤさせやがるぜ」顔の汗を拭いながら、ラムジとイワノフはようやくひと息ついた。ガンダムの壁面工事を破壊するまでは、こんな所で誰かに見つかって作戦を台なしにするわけにはいかない。

CUSTOM MODEL

キミだけのカスタムモデルに仕上げよう!! イマジネーションを広げてみよう!!



ウェザリングマーク等(削り出し)を使ってウェザリングに挑戦してみよう!! 土や泥等の汚しが残る合う水陸両用MSならではの劣化跡が出て、グッと立体感を出せるぞ!!



付属のフィギュアを使って劇中の名シーンを再現!! さらにディスプレイベースやエフェクトバージを使い、大迫力の水中シーンのジオラマを作り込んでみるのも楽しいぞ!!



外装や内部の一部をカットして、切り口に色を塗れば、内部構造が分かるカットモデルの完成だ!! こういった改造がカチッときまるのも、内部フレームがしっかり作られたMSシリーズの特徴だ。他の機体でも試してみよう!!



オリジナルデカール



ジャングル迷彩 水中迷彩

他にも付属のオリジナルデカールや図の迷彩見本を参考にして、自由な発想で自分だけのカスタム仕様のアッガイにチャレンジしてみよう!!

◎創通エージェンシー・サンライズ

PAINTING

*よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色を参考ください。

*接着部にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

*このキットをよりリアルに仕上げたいかたは、(株)GSIクリオより販売のガンダムカラー(TM3 アッガイ用、その他カラーセット)をお使いください。

本体等ブラウン部の塗装色。
ココアブラウン (80%) + ブラック (10%)



内部フレーム等グレー部の塗装色。
ニュートラルグレー (40%)
+ RLMライトブルー-B6 (40%)
+ エアクラフトグレー (20%)

腹部等グレー部の塗装色。
ライトブラウン (40%) + カーキ (30%)
ガルグレー (15%) + ホワイト (10%)
ブラック (5%)



バックパック等グレー部の塗装色。
ニュートラルグレー (90%)
+ ブラック (10%)

モノアイピング部の塗装色。
螢光ピンク (100%)



■ワンポイントステップ スミ入れしてみよう!

ガンダムマーク／スミ入れ用(鉛洗り)などを使用して、ミンの所に線を引くことで、模型が完成感あります。



[before]

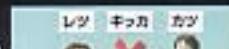
[after]

カツ・レツ・キッカ

肌色の塗装色。
赤だ色 (100%)

髪(毛)(キッカ)等
イエロー部の塗装色。
イエロー (100%)

髪(キッカ)等
水色部の塗装色。
すみれ色 (70%)
+ ホワイト (30%)



髪(レツ)等
レッド部の塗装色。
シャインレッド (100%)

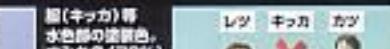
髪(カツ)等
グリーン部の塗装色。
イエローグリーン (100%)

髪(キッカ)等
黄土色部の塗装色。
ライトブラウン (100%)

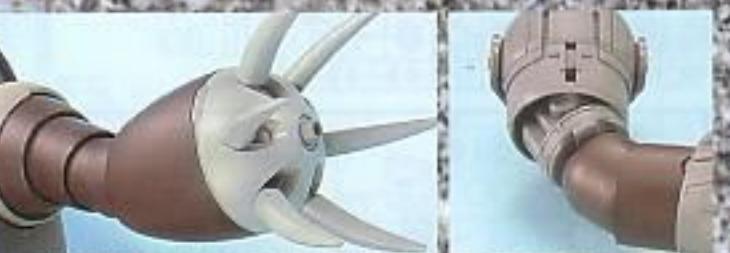
バイロット／ダイバー／クルー

パイロット
ブラウン部の塗装色。
ココアブラウン (100%)

ダイバー
ブラック部の塗装色。
ブラック (100%)



▲ 右腕のクローズはスプリングアクションでスイッチ(砲口)を押して展開。



▲ 腕部には伸縮ギミックを採用。幅広い可動範囲を両立して様々なポージングが可能。

▲ 潜水艦をイメージした、専用のディスプレイベースが付属。スタンドの角度は調整可能。エフェクトパーツやダイバーをセットしてディスプレイすることが可能。



▲ 設定を裏付けた多重構造の内部機構を再現。補強フレーム
をモチーフにしたディテールを追加。



▲ 様々な表現のエフェクトパーツが付属。



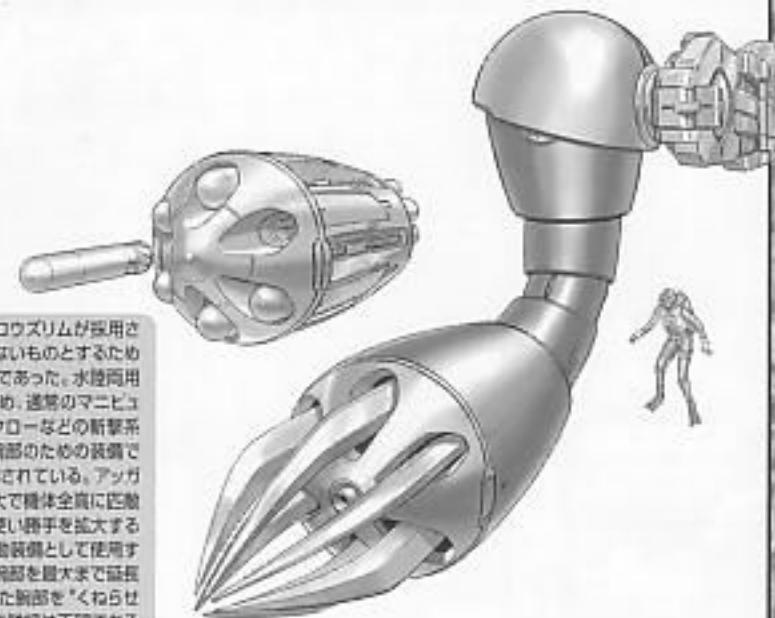
▲ 各部に水陸両用MSならではのディテールを再現。

ARM UNIT

(腕部)

アッガイの腕部は、他の水陸両用MSの特徴ともなる複数の装甲に囲まれた柔軟な可動性と、既頭式のクローラー状アイアンネイルによって構成されている。基本的な仕様は、機関砲とクローラーのもの、6連ミサイルランチャーを内蔵するものの、メガ粒子砲を搭載したものを左右で配置するか、別のユニットや左右を交換して装備することも可能であった。

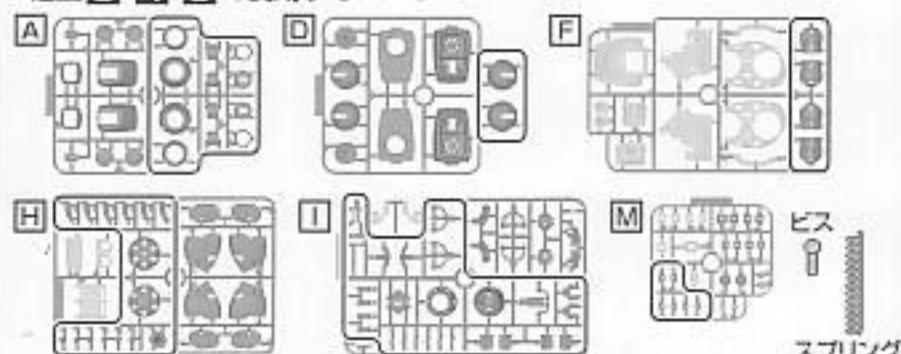
アッガイの腕部にも、自由度の高い複数の関節で構成されたペロウズリムが採用された。ただしこれは、ゴッグのように航行時の形状特性を抵抗の少ないものとするためというより、むしろ陸上での戦闘に対応するために採用されたものであった。水陸両用MSは、機体運用の問題からオプション共用の携行が困難であるため、通常のマニピュレーターに代えて種族やミサイルなどの火薬を内蔵し、あるいはクローラーなどの新規系の武器を採用することとなっていた。ただし、これらはあくまで前腕部のための装備であり、フレキシブルペロウズリムは、肘から肩までの構造として採用されている。アッガイのものは1ブロックあたりのユニットがゴッグのものより長く、最大で機体全高に匹敵するほどのリーチ長を獲得している。このことは、前腕部の武装の使い勝手を拡大するばかりではなく、例えば坑道のような狭隘空間においては補助的な移動装備として使用することが可能であった。ちなみに、アッガイの水面抵抗に則しては、腕部を最大まで延長していた方が特性が優れていたとさえ書かれており、実際に伸びた腕部を“くねらせて”推力を得ることも可能だったという説さえ存在するものの、その詳細は不明である。



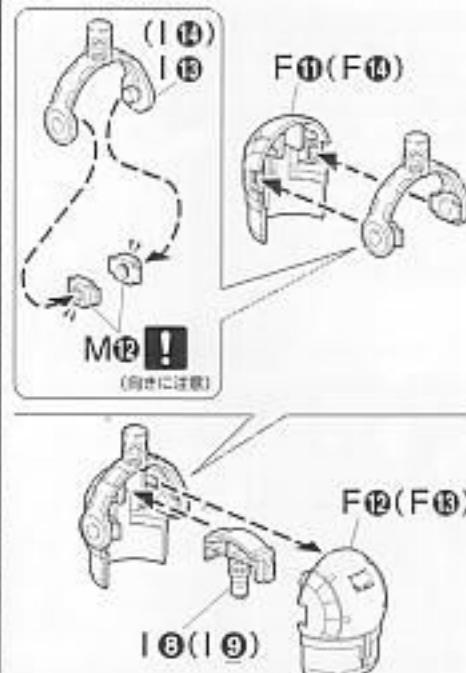
3 ARM UNIT



・組立③・④・⑤で使用するパーツ



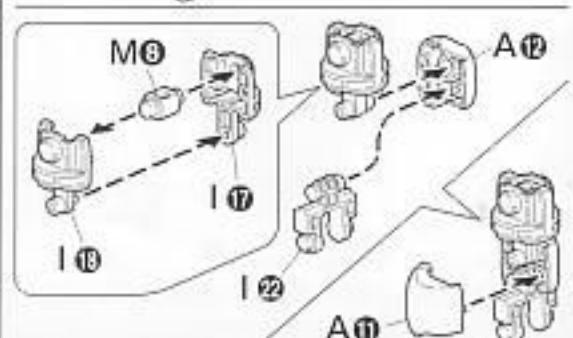
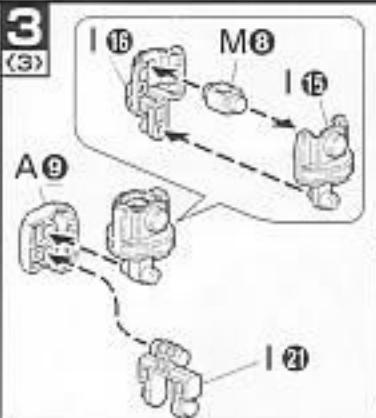
3-2 (腕部の組立) (1) 20074 ARM ASSEMBLE

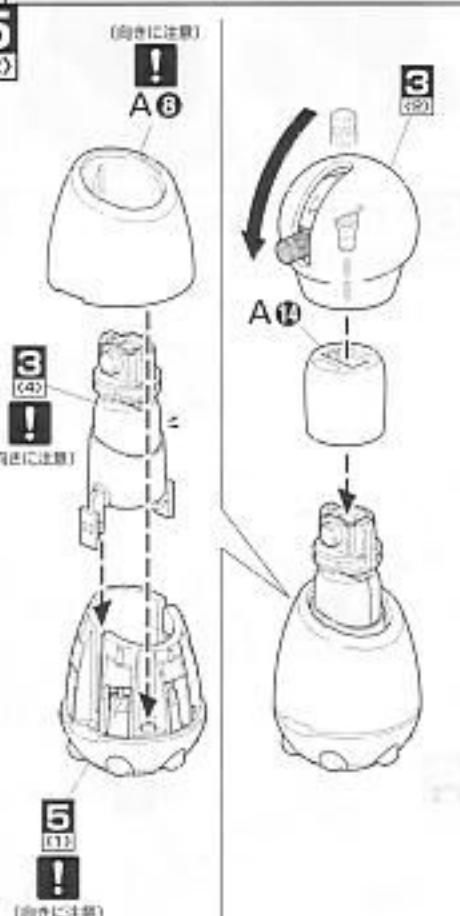
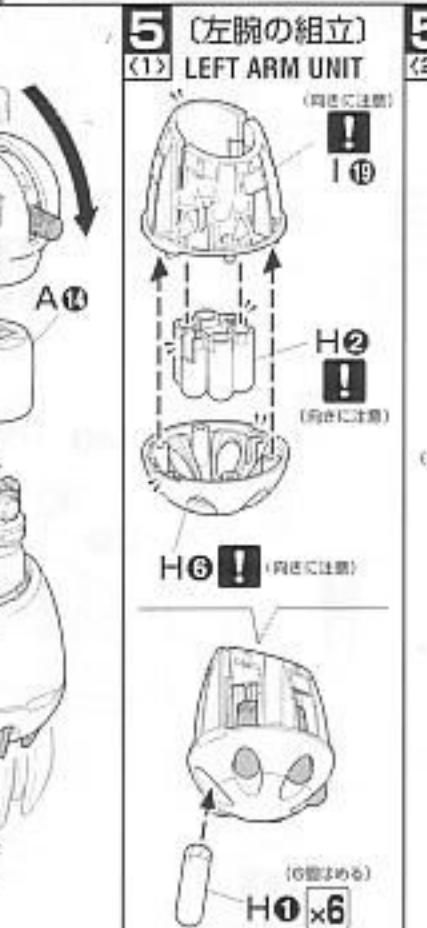
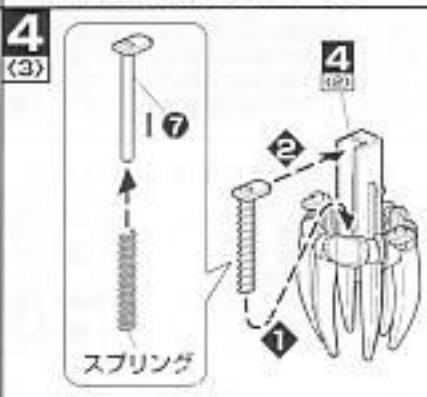
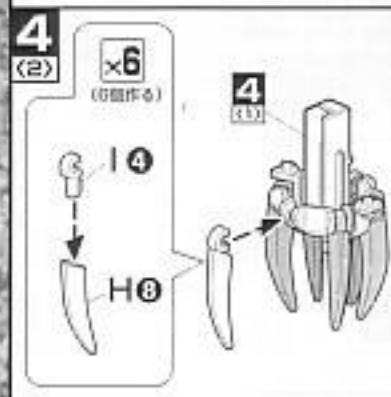
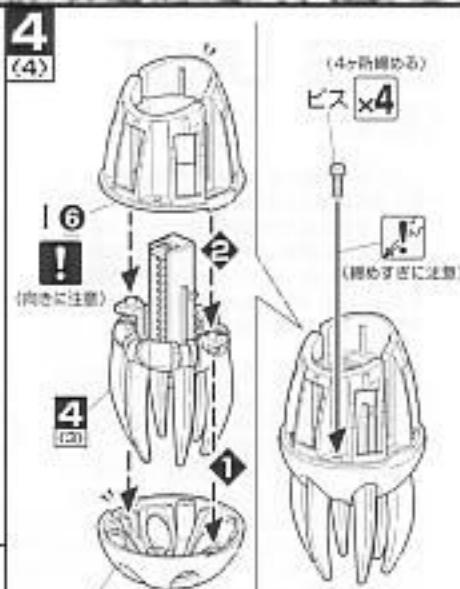
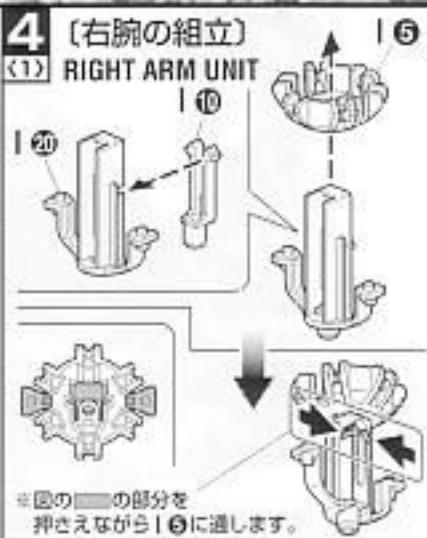
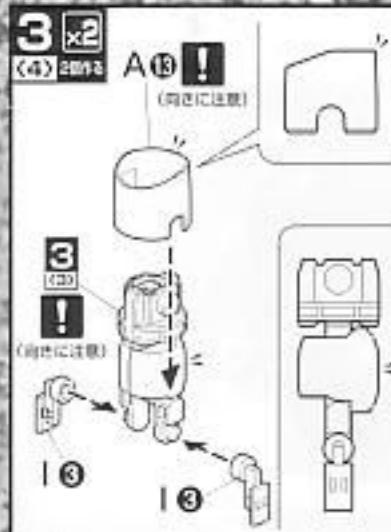


3-2 (2) 20075



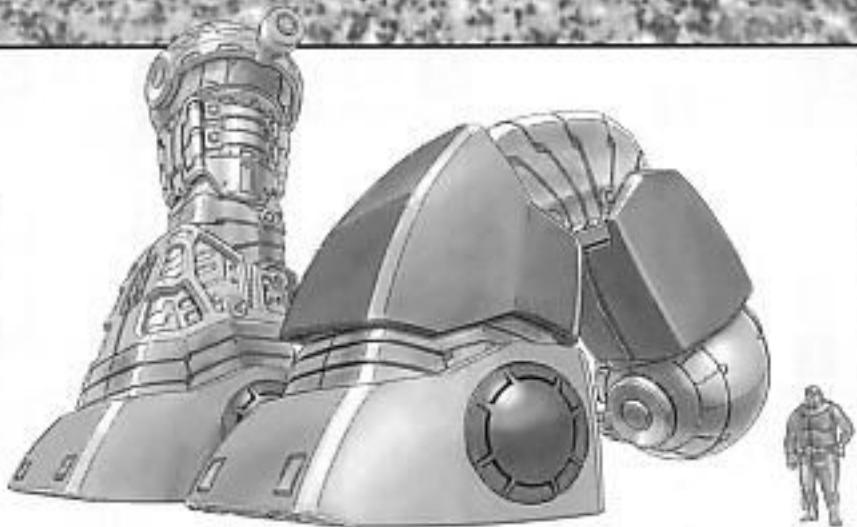
3 (3)





LEG UNIT (脚部)

アッガイの脚部は、歩行脚であると同時に、主要な推進装置でもある。ただし、初期の機体の足下に搭載された推進装置は当初、スクリューと同等程度の速度しか得ることができなかったと言われている。ゴックと同様に、航行時の抵抗を減らすため、股関節をボディ内に引き込むことができるようになっている。

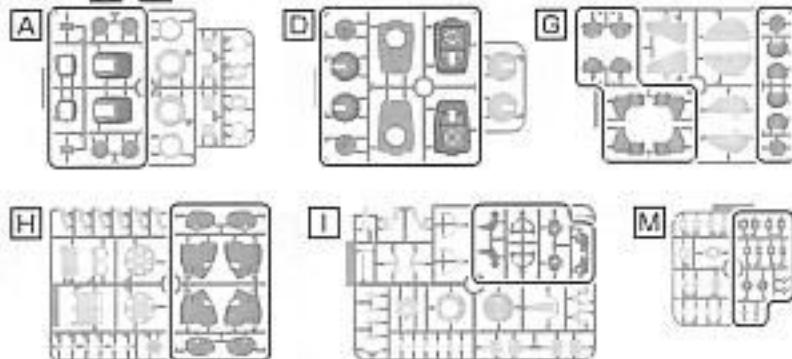


アッガイの脚部は、公国製の水陸両用MSのなかでも“歩行”に関して高い能力を持っている。なぜなら、その内部に採用されているフレームやアクチュエーターはほとんどがザクIIからの流用であり、信頼性や耐久性は十分に実績のあるものだからである。水陸両用機でありながら、陸上において距離による移動や攻撃が可能というスペックは結構のものであった。また、水陸両用機の場合、開閉脚や股関節がスライドする機構は、水中での抵抗を減らすためのものである場合がほとんどだが、アッガイの場合はむしろ、陸上で運動性を向上させるための機能であるといえるのである。アッガイの脚部は、“歩行脚”として必要な充分なスペックをもち、逆に、水中用の耐圧殻として増加した装甲厚に対応し、内部フレームの構造や股関節のスライド機構によって可動範囲の低下を回避しているのである。いわば、ザクそのものよりも優れた運動性を持っているといふことも可能なのである。そのため、多くの上陸作戦において、周辺海域の探索や陸上における駐留を主張とする作戦である場合など、陸戦用MSとしても運用できるアッガイの方が、トータルで見た場合の使い勝手が良かったことは言うまでもないだろう。それを支えていたのも、水陸両用機とは思えない強力な“脚”を持つアッガイならではといふことができるだろう。

6 LEG UNIT

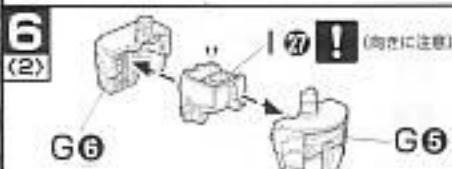
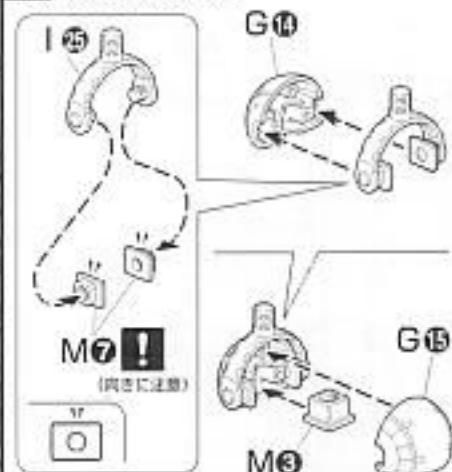


・組立 6・7で使用するパーツ



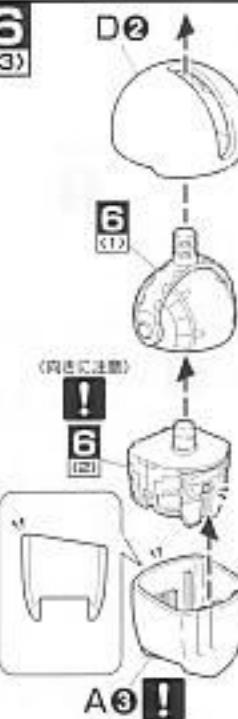
6 (右脚部の組立)

(1) RIGHT LEG UNIT



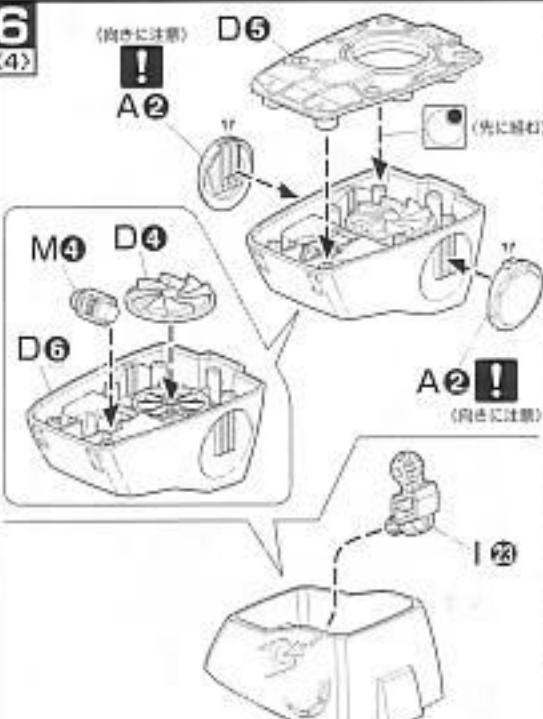
6

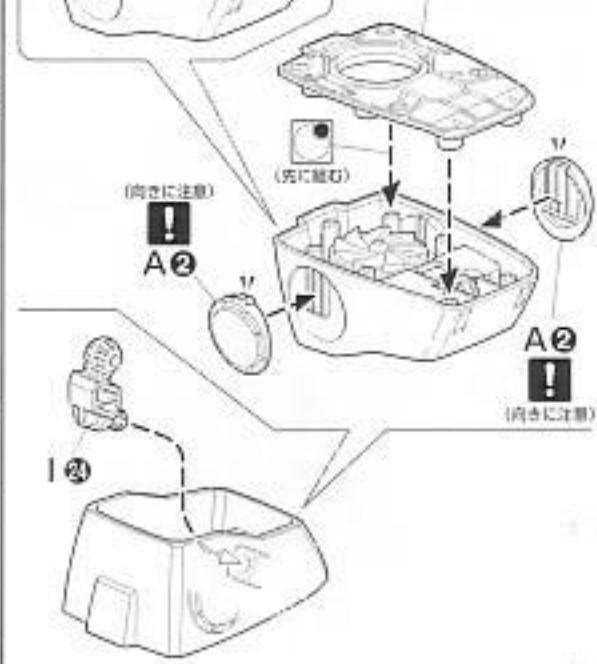
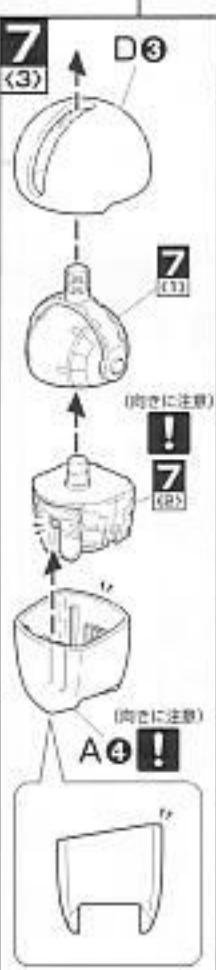
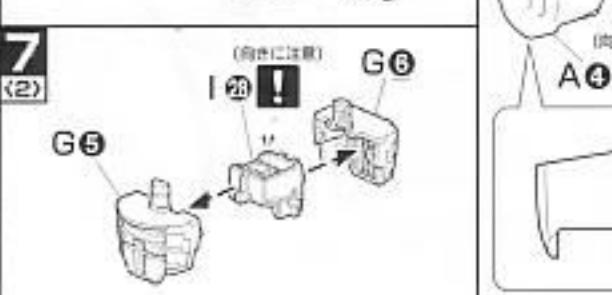
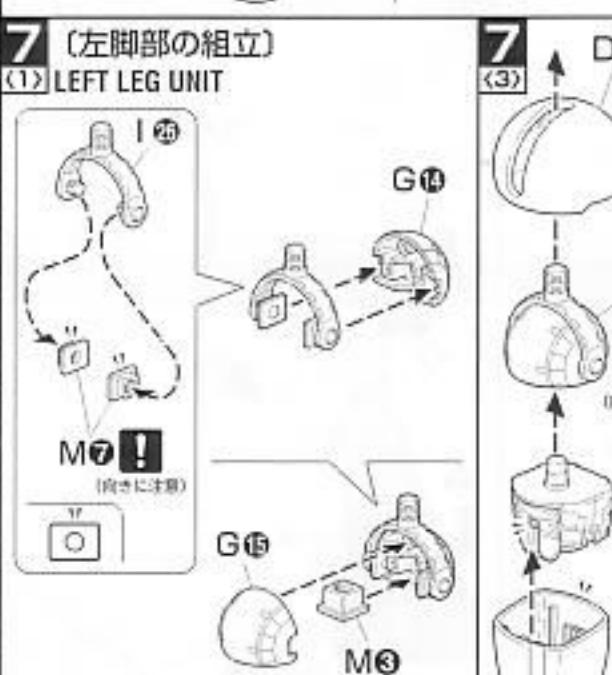
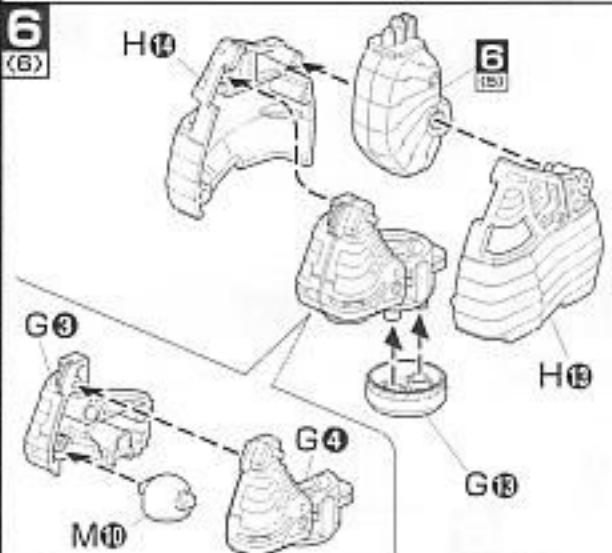
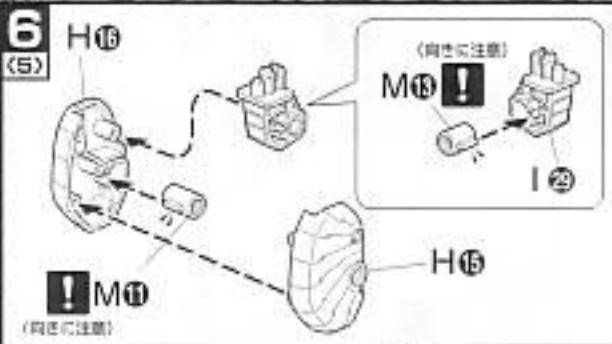
(3)

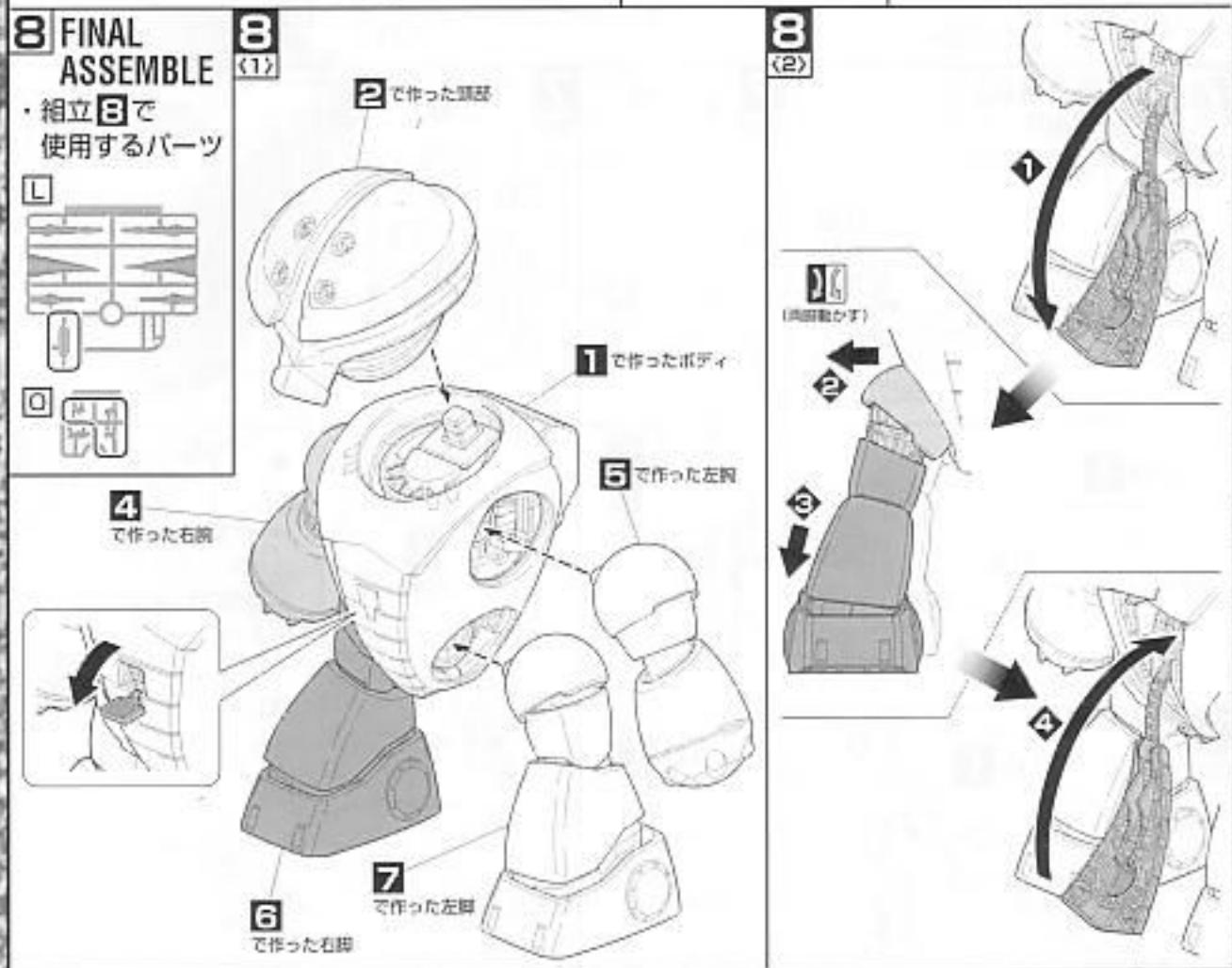
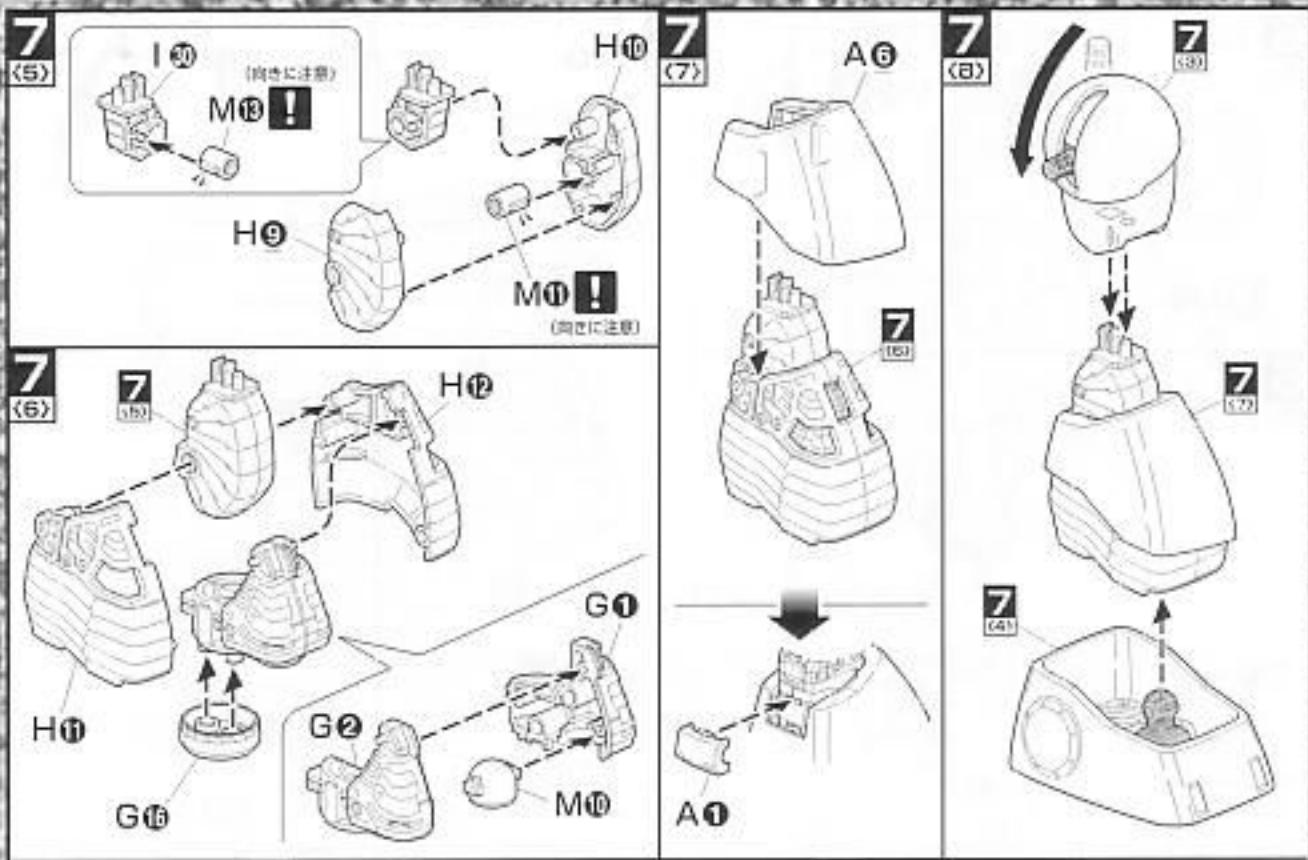


6

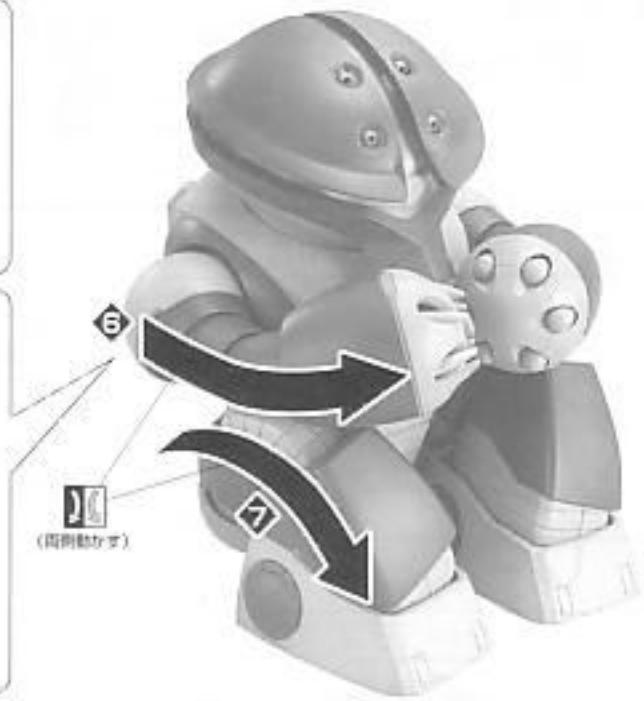
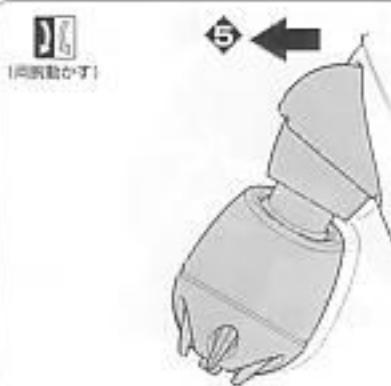
(4)





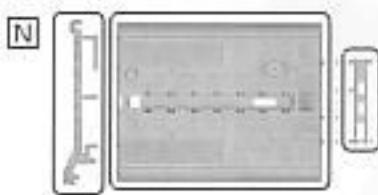


8
(3)

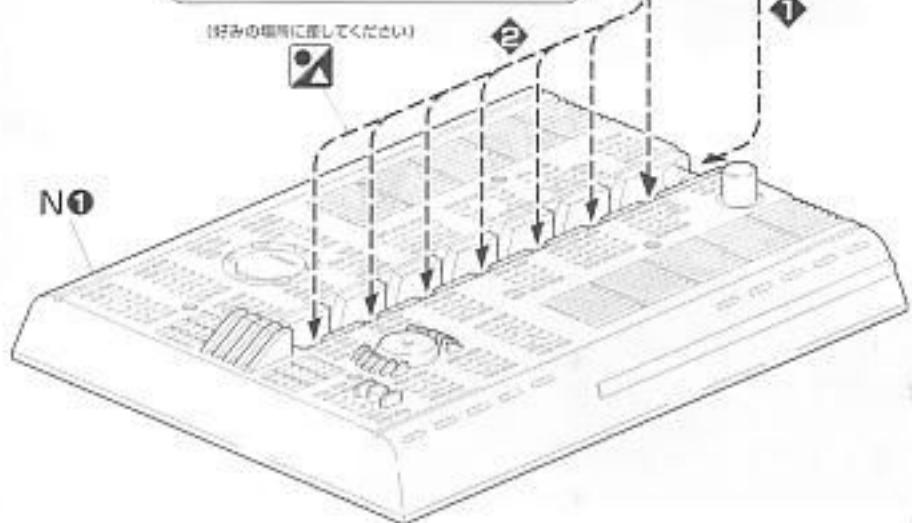
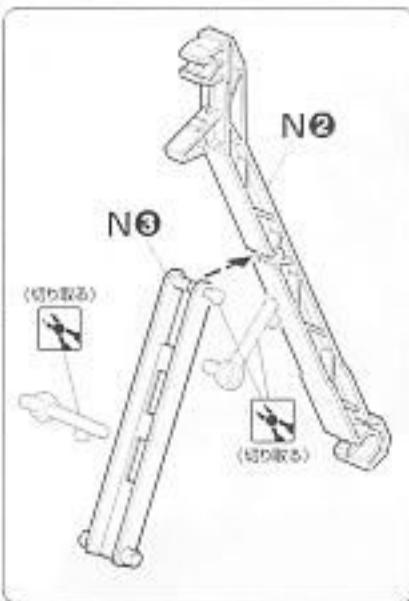


9 DISPLAY STAND

・組立⑨で使用するパーツ

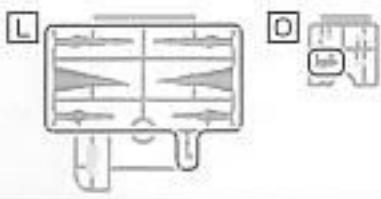


9 [ディスプレイスタンドの組立] DISPLAY STAND

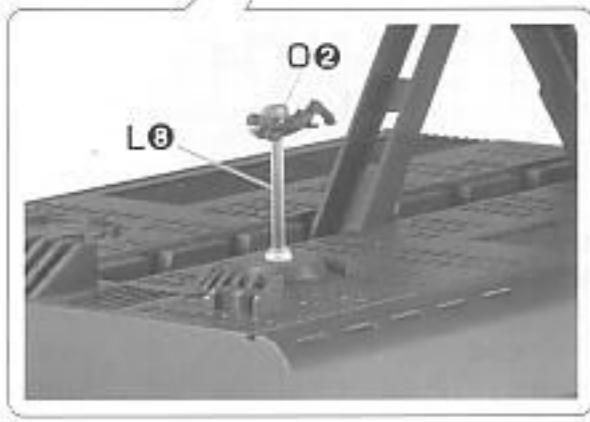
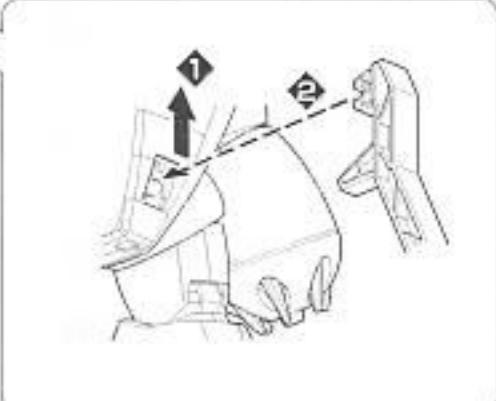
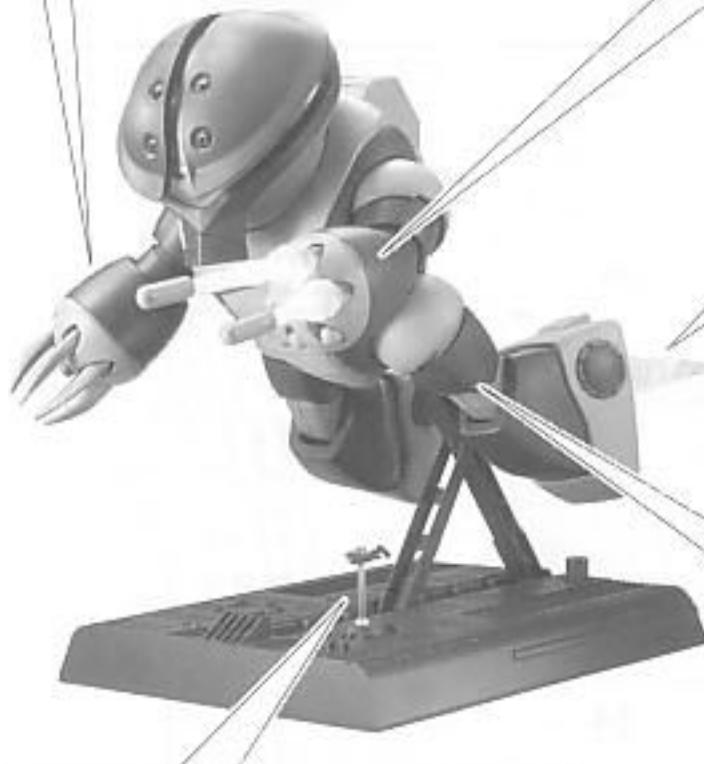
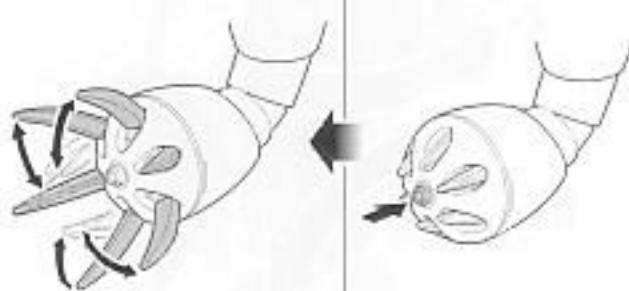


⑩ OPTION

・組立⑩で使用するパーツ



●通常はツメを出した状態で
飾っておいてください。



※C⑩は好みの場所に飾ってください。

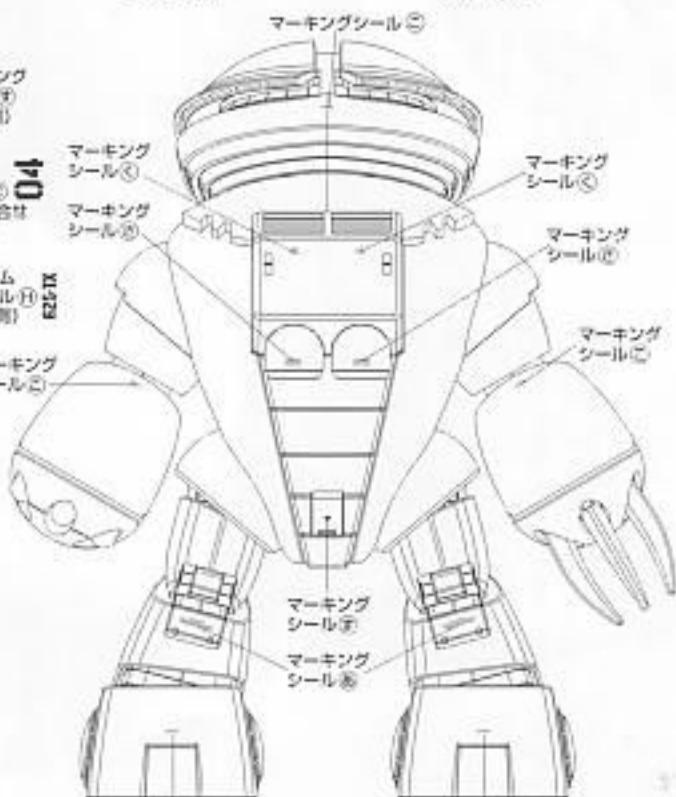
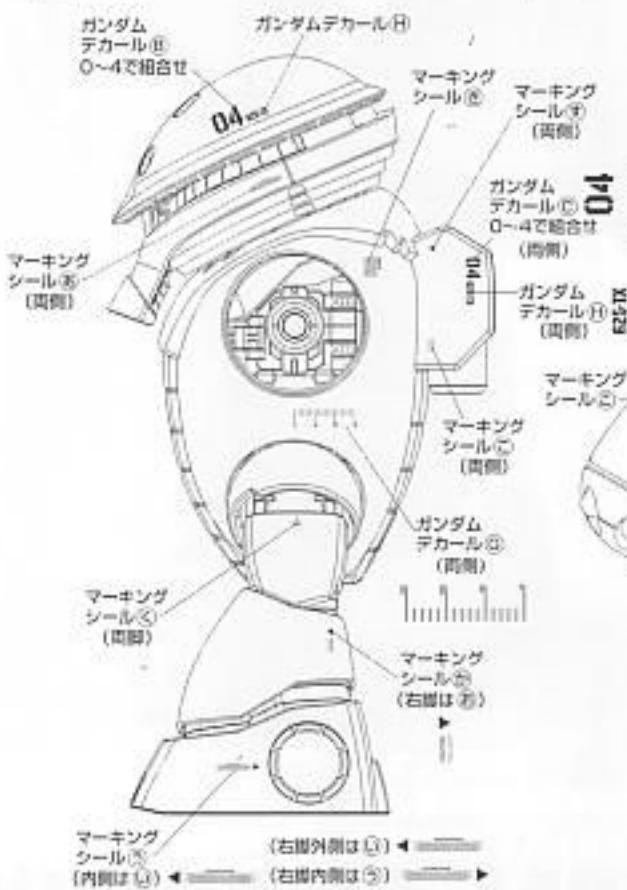
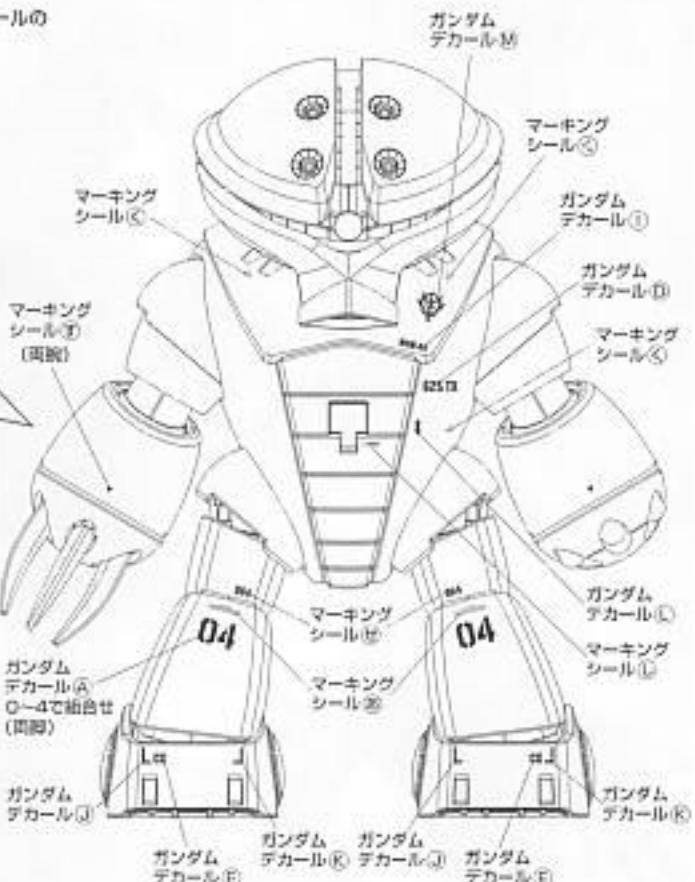
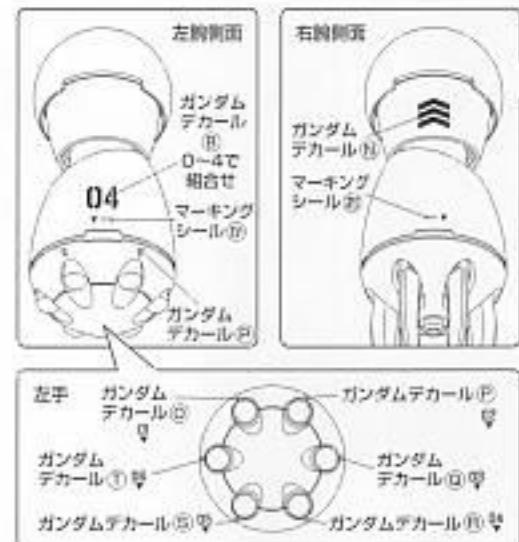
Seal

下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

ガンダムデカールの貼りかた。

- 転写するマークを大きくにります。
- 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
- シート部分を静かにはかり、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカール指示は一例です。
イメージに合わせてお貼りください。



*余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



Scanned by Dalong.net



ジオン公国軍
量産型水陸両用モビルスーツ
MSM-04「アッガイ」
1/100スケール
マスターグレードモデル

MSM-04 ACGUY
PRINCIPALITY OF ZEON MASS-PRODUCTIVE AMPHIBIOUS MOBILE SUIT